

# 産品交流やりがい

【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）

は2月下旬から、山間部の伊賀市と沿岸部の尾鷲市を結ぶ産品交流事業に取り組んでいる。入社2年目の岩本毬花氏（19）は冷蔵軽トラックで伊賀と尾鷲を往復し、魚や野菜をそれぞれ届けてきた。

「片道2時間半かかるけれど楽しい。伊賀の人々は新鮮な魚、特においしい刺身を求めている。産品交流で消費者に喜んでもらえる

## 中田商事 岩本毬花さん



「早く2ト車にステップアップしたい」と岩本さん

ことに、大きなやりがいを感じている」  
作りするなど大活躍。欠かせない戦力に成長した。4月1日からは四日市営業所（四日市市）に異動し、新しい仕事にチャレンジして

## 週末はサッカー審判

いる。

小、中、高校とサッカー一筋に打ち込んできた。選手として限界を感じ、審判



が、資格取得に向けて勉強している。女子ワールドカップの本大会で、主審として笛を吹くことが一番の夢」

サッカーに造詣が深い中田社長（52）も、全面的にバックアップ。平日はトラガール、週末は審判と、二足のわらじを上手に履きこなしている。

「サッカーの審判は無給のボランティアが基本で、ほとんどの人が他に仕事をもちながらやっている。私の本業はあくまで運送会社ドライバー。早く2ト車にステップアップしたい」  
（星野誠）